



# 多高図書館だより

第 73 号

平成28年3月1日  
宮城県多賀城高等学校  
図書委員会

## 私と書物

遠藤 敏郎 先生

### ■前篇（私の読書）

私における読書は、なによりも私の生き方を見つけるためであった。そしてその読書範囲は決して広くはなかった。万巻の書をひもとき、あらゆることに通暁するようなことは私にはできなかった。本来、読書が好きではないので、自分に向いたものだけを読むようにして来たのである。自己がより確認され、分裂しない私でいられるような範囲の読書だったのであり、知的冒険を求めて、様々な分野にも手を出してみたこともあるけれど、崇高であっても、あまりにも自己とかけ離れた理想論ばかりで、いわば絵空事とも思えるような内容ばかりには一切興味を示さなかった。

また、あまりにも技巧、精緻をこらした文学論なども、かえって読書そのものの妙味を殺してしまうような気がした。難解すぎる文章も必要以上に読まないことにした。新しい文体で書かれたものも、言葉ばかりが目立つものは避けた。そういう文章は概して体験の裏付けとか実感が乏しいので、面白いが再読する気になれなかったものが多い。

私における読書は、それに没入して、日常の時間とは違った次元の経験をさせてくれ、普段見えなかったものが見えて来て、深い歓びと幸福な瞬間を持つことができるようなものでなくてはならなかった。

### ■後編（書物の影響力）

最近、本らしい本を読んでいないのだが、私の人生に大きく影響を及ぼした本（文学者）のことを書いてみたい。

椋 鳩十（むく はとじゅう、一九



〇五年〜一九八七年）。長野県出身の小説家、児童動物文学者。この作者の「大空に生きる」が印象深い。私が野生児のような生活をしていた小学校低学年の頃、少しでも机に向かわせようと親が用意した何冊かの本の中の一冊である。はなから熟読する気はなく、ただひたすらパラパラと頁をめくり、ところどころにある挿絵ばかりながめていた。実はこの挿絵が曲者であった。自然界に生きる鷲、おそらく「イヌワシ」の姿を勇壮かつ精悍に、しかもリアルに、今にも本から飛び出さんばかりに描かれていたのである。そんな鷲の姿に自分を同化させながら、何度も

ながめているうちに、この本の中に引きずり込まれ、深い歓びと幸福に浸っていたことは言うまでもない。

この作者のほとんどすべての作品は、かつて（数十年前）の日本の山村の暮らしと野生動物の関わりを、リアルに生き生きと描きだしているといわれている。この「大空に生きる」の主人公は、親を失った鷲の兄妹である。幼い鷲が野生で生きるときに出会う幾多の困難、そしてその試練を乗り越えながら知恵と技術を身に付け成長していくというストーリーとなっている。特に猟師との関わりが大きなモチーフとなっており、猟師に狙われ傷つき捕まえられるてしまい、怒り猛り狂う。しかし、次第に湧いてくる人間への親近感と諦めきれない大空を飛ぶ自由への渴望の間で心が揺れ動く。人間に捕らえられた野生動物の心理状態を本当によくかんて表現している。この事は同時に、人が野生動物をいかに飼育すべきか、そして絶対飼育すべきではないということも教えている。

小学生高学年の頃にはすでに、この本にふれたことによって、将来は野生生物の保護に関われる、当時の日本で

はまだ一般的でなかった国立公園のレンジャーになりたいという希望を持っていたのである。今思うと、我ながら随分と純粋（単純）だったのだなあと思うし、生来の生き物好きも手伝って今の生物教員としての自分があるのだとも思えてならない。ここで、生物教員としての生活に終止符を打つことになるが、ライフワークとして、野生の生き物、特に野鳥の生態研究は今後も続けたいと考えている。誰でも人生に指針を与えてくれるような書物に出会えるはずだ。



## 読書感想文

### 「多読賞1位」

#### 『世界妖怪事典』を読んで

3年7組 佐藤佳菜

私は今回、昨年なくなれた漫画家水木しげるさんの『世界妖怪事典』を読みました。事典と題名に書かれていたので文字のみかと思って見てみると、妖怪の説明文とともに水木さんの描いた絵も載っていて、その絵は実際にこういった存在はいるのだと思わせるほどずばらしいものでした。

そして、昔の人は妖怪の存在を信じている人が多いのに、何故現代の人は妖怪の存在を信じる人が少ないのか疑問に思いました。妖怪と思われるものが科学的に解明されていて、それを信じるからでしょうか。科学が全て正しい証拠なんてないのに人はそれを信じる。その行為は、ある意味で現実逃避といえるのではないかと、この本を読んで思いました。

#### 『2・43 清陰高校男子バレー部』を読んで

2年2組 菅 美緒

バレーへの情熱が誰よりも強いが、それゆえ周囲との摩擦を引き起こしてばかりの天才セッター・灰島。ずば抜けた身体能力を持ち合わせながらも、プレッシャーに弱いレフト・黒羽。この二人は、中学でエースコンビとして活躍する。しかし、中学最後の県大会で二人は衝突し、それ以来、絶縁状態になってしまふ。やがて二人は同じ高校に入り、紆余曲折ありながらも、再びバレーで全国を目指すこととなる。

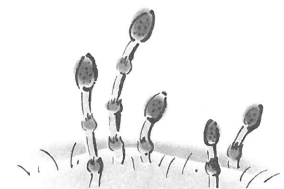
この作品には青春の汗や挫折、不安や期待といったものがすべて詰まっている。また、文面から試合中の臨場感が伝わってきて、まるで登場人物の息遣いが聞こえてくるようだった。どんなことがあっても、ぶつかっては乗り越えていく彼らの姿はとても爽快であり、何かに夢中になることは素晴らしいものだと感じた。

#### 『死神の精度』を読んで

2年5組 佐々木 瑠華

タイトルの通り主人公は死神です。死神である彼の仕事は、死期の近い人間の調査をし、「死」を実行するか否か決めること。可であれば対象者はその翌日に「死」が実行されます。この本の構成は6編の短編集ですが、微妙に物語が繋がっているのがなかなか面白いです。それぞれ、本格ミステリやラブストーリーなど様々なジャンルが詰め込まれているので読者を飽きさせません。基本的に人間に興味が無い主人公が、仕事といいながら人間の都合に巻き込まれていく姿はどこか楽しげでした。

一度読んだ本は読み返さない主義ですが、この本は結末を知っていても、何度も読み返したくなる不思議な本でした。



# 芸術鑑賞

## 「HIDE×HIDE」コンサートを鑑賞して

図書情報部 菅 原 淳 史 先生



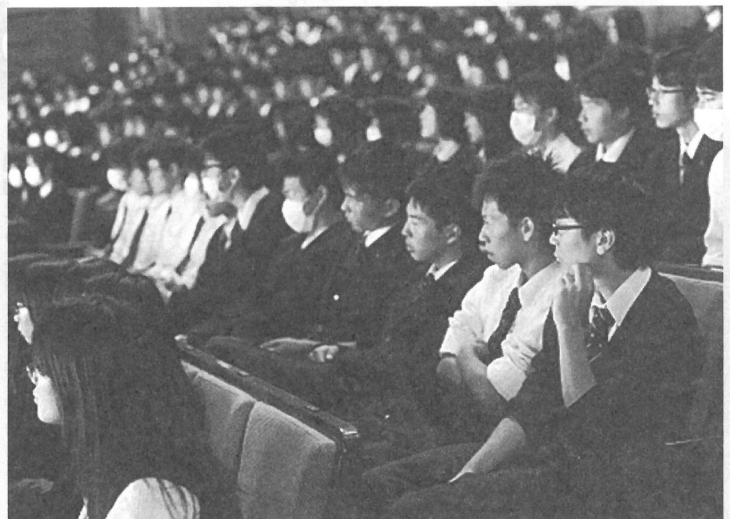
今年度行われました芸術鑑賞会は本校の四十周年記念事業の一環として「HIDE×HIDE」によるコンサートが多賀城市文化センターで執り行われました。ここで「HIDE×HIDE」について紹介を致しますと、楽界の次世代の和楽器ユニットで、メロディアス且つエモーショナルな尺八とソリッドでエッジ感溢

る中棹三味線が織り成す唯一無二のサウンド、観客を凌駕するその圧倒的なパフォーマンスで今最も注目を浴びています。二〇一〇年、ロシアのサンクトペテルブルクで開催された国際コンクール(TEREM Crossover International Music Competition)で第一位及び特別音楽賞を獲得しており、魂を揺さぶり続ける圧倒的な演奏力、幅広い音楽性に裏付けられた叙情的な表現力は、高い評価を受けております。また今回はピアノのワキマル・ジュンイチさんとパーカッションの赤間慎さんとカルテットでの公演ということで、生徒たちも楽しみにしておりました。演目は「獅子奮迅」から始まりました。尺八と三味線が奏で

れる中棹三味線が織り成す唯一無二のサウンド、観客を凌駕するその圧倒的なパフォーマンスで今最も注目を浴びています。二〇一〇年、ロシアのサンクトペテルブルクで開催された国際コンクール(TEREM Crossover International Music Competition)で第一位及び特別音楽賞を獲得しており、魂を揺さぶり続ける圧倒的な演奏力、幅広い音楽性に裏付けられた叙情的な表現力は、高い評価を受けております。また今回はピアノのワキマル・ジュンイチさんとパーカッションの赤間慎さんとカルテットでの公演ということで、生徒たちも楽しみにしておりました。演目は「獅子奮迅」から始まりました。尺八と三味線が奏で

る演奏は現代の生徒たちには真新しいものに映ったことでしょう。演目の途中では楽器の紹介をしていただいたり、「HIDE×HIDE」がよく公演を行っているロシアでのお話などを伺ったりしました。アンコールも含め約九〇分という時間があっという間に感じられ、生徒達は熱心に聞き入っていました。実は「HIDE×HIDE」がカルテットで学校の公演を行うのは今回が初めてのことだったそうで、多賀城高校の生徒とともに演奏の時間を共有できたことに感激したとのことでした。

尺八と三味線と聴くと縁遠いものと思われがちなのところもありますが、今回の公演で生徒のみなさんも身近に感じる事ができたのではないのでしょうか。これまでに経験したことのない演奏を直接聞く機会をいただけた「HIDE×HIDE」に改めて感謝の言葉を申し上げます。ありがとうございました。



## 貸出冊数上位図書

今年度よく読まれた本のランキングです。

上橋菜穂子の作品が二作ランクイン。国際アンデルセン賞や本屋大賞の受賞で話題になりました。アニメから原作に興味をもった人、授業中に話題になったから借りに来た人などもありました。

『神様のカルテ』は映画化もされた作品です。二〇一五年には『神様のカルテ0(ゼロ)』が出版され、シリーズを通して借りていく人が目立ちました。

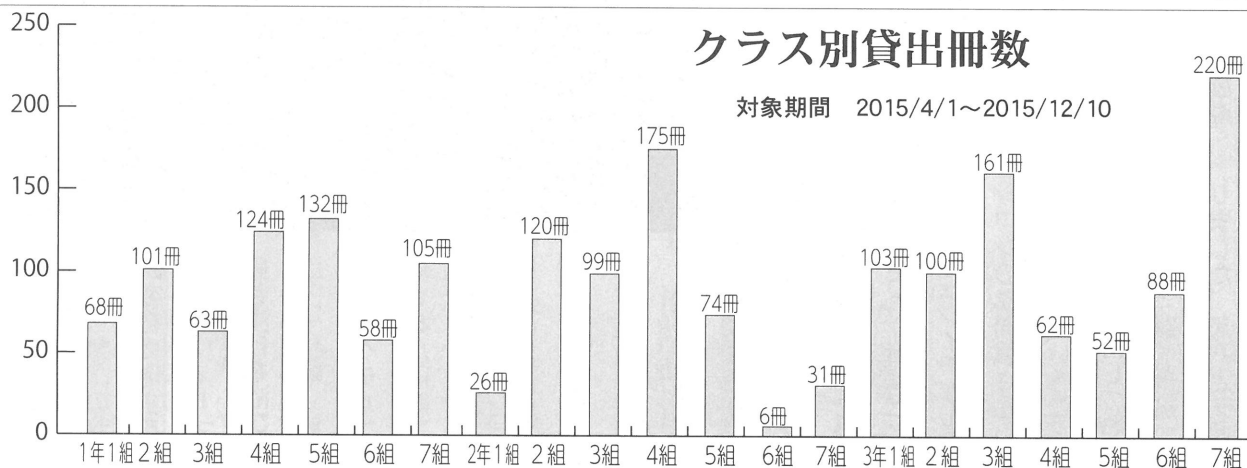
西尾維新作品や、『絶対城先輩の妖怪学講座』は、人気が固定化しているようです。

ランキングを参考に、これまで読んだことがなかったジャンル・作家の本にチャレンジしてみたいかでしょうか。

順位	書名	著者名	利用数
1位	獣の奏者 1 闘蛇編	上橋菜穂子	8
2位	神様のカルテ	夏川草介	7
2位	終物語 下	西尾維新	7
2位	陰陽師 天鼓ノ巻 文春文庫	夢枕獏	7
2位	続・終物語	西尾維新	7
2位	鹿の王 上：生き残った者	上橋菜穂子	7
7位	スティーブ・ジョブズ「超」仕事力	竹内一正	6
7位	絶対城先輩の妖怪学講座	峰守ひろかず	6
7位	絶対城先輩の妖怪学講座 5	峰守ひろかず	6
10位	よくわかる栄養学ハンドブック	舩重正一	5

## クラス別貸出冊数

対象期間 2015/4/1～2015/12/10



## 新着図書紹介

世界の極上絶景・秘境 カワイオフィス  
近現代日本史と歴史学 成田 龍一  
子供部屋のアリス ルイス・キャロル  
武士道ジェネレーション 菅田 哲也  
お任せ！数学屋さん3 向井 湘吾  
下町ロケット2 池井戸 潤  
ちょっと具合のよくないときのごはん 岩崎啓子・石川みずえ  
だれでも作れる万華鏡 照木 公子  
アクセシブルデザインの発想 星川 安之  
医療につける薬 内田樹・鷺田清一に訊く 岩田健太郎  
大村智 2億人を病魔から守った化学者 馬場 錬成  
大人に質問！「大人ってどのくらい大変なんですか？」 みうらじゅん＋児童館の子どもたち  
ぼくたち日本の味方です 内田 樹・高橋源一郎  
ラオスにいったい何があるというんですか？ 村上 春樹  
ニュートリノで探る宇宙と素粒子 梶田 隆章  
青春探偵ハルヤ 福田 栄一  
困難な成熟 内田 樹  
新カラムーゾフの兄弟上下 亀山 郁夫  
津波堆積物の科学 藤原 治  
地質学用語集 日本地質学会  
東日本大震災とフードシステム 日本フードシステム学会  
インフラ被害の全貌 日経コンストラクション  
方言を伝える 大野眞男・小林 隆  
災害廃棄物の処分と有効利用 土木学会

巨大津波地層からの警告

測地・津波

後藤 和久

地球のテクトニクス1 堆積学・

変動地形学

藤本博己ほか

人魚の眠る家

箕浦幸治ほか

スクラップ・アンド・ビルド

東野 圭吾

君の臓腑をたべたい

羽田 圭介

だれもが知ってる小さな国

住野 よる

べつの言葉で

有川 浩

インカの世界を知る

ジュンパ・ラヒリ

カレイライズと日本人

木村秀雄ほか

対話のレッスン

森枝 卓士

ビックリするほど遺伝子工学がわかる本

平田オリザ

こわくない有機化合物超入門

生田 哲

DNAを操る分子たち

船山 信次

動物たちは何を考えている？

武村 政春

極限環境の生き物たち

日本動物心理学会

あらもの図鑑

大島 泰郎

星新一空想工房へようこそ

松野 弘

最相 葉月

編集後記

1年3組 齋藤 朱莉

みなさんは、図書室をどのくらい利用しているでしょうか？

まったく利用していない、毎日利用している、と人それぞれでしょう。しかし、「まったく利用していない。」人は、少しばかり損をしていると思います。

図書室には、たくさんの種類の本があり、どれも無料で借りることができます。いちいち、本屋へ行って買うよりも、気軽に、そしてお金にも困らずに本が読めるので、是非図書室をたくさん利用して、本をたくさん読んでください。

